

# 觀光

にほんぜんごく 日本全国どこに行つても同じものが売られています。道路も宿泊も同じよう  
に整備され、教育も『子供の個性を尊重しよう』と言いながら、横並びの教育を押し進めて  
います。そこにしかない店があつて、そこでしか売られていないものがあつて、その場所で  
しか出来ない教育があつてそれで良いと思ひます。雪の降る地域と、雪の降らない地域と、同  
じように用水や川を整備する必要があるでしょうか。子供の描いた太陽が『黒い』からといつ  
て『その色は違う』と直させる必要があるでしょか。『同じ』でないことが『平等』でない、  
『同じ』でないことが『差別』である、と勘違いしているように感じるのは私だけでしょか。  
か。『観光』という言葉があります。観光とはその字のごとく、『光(ひかり)』を『観(み)る』  
と書きます。この光とは『知恵』のことです。その土地土地でつちかわれてきた知恵であります。  
の土地の風土、気候に合わせて創意工夫されてきた知恵であります。  
その土地・地域で、生活・生きていくために、工夫され磨かれた知恵。この知恵を『観る』  
ことを『観光』というのです。ちなみに、この観るは、触れ、感じ、学ぶという意味です。  
名勝やテーマパークに行つて、ピースサインで写真を撮つてることが観光ではないのです。  
衣食住に根付いている知恵を観てくることが観光なのです。そこに生きている生活の息吹を感じ  
てこなければ、そこに住む人たちの生活を感じてこなければ、本当に観光してきたとは言え  
ません。昔から『可愛い子には旅をさせろ』と言われた理由もそこにあります。様々な地域の、  
そこに住む人たちの知恵と工夫と努力を観て学び、そして旅に出る前より、人間的に一回りも  
二回りも成長して欲しいと言う親の願いの現れと言えましょう。  
多くの観光を中心としている地域が、この違いを消すことに躍起になつてゐます。綺麗に、同  
じに、そして生活感を感じさせないように。観光客のために道路を広くしたり、観光施設を行  
くために道をつけたり、古い街並みを保存と言う名目で新しい材料で綺麗にしたり・・・。  
しかし、本当に観光を主とするなら、逆に、その土地に住む人たちの生活の息吹を見せる  
ことに価値があると思ひます。いつも不思議に思うことは独自性、独創性と声高だかにいいな  
がら、やつていることは結局みんなと同じ、他と違うことを嫌うという物事の考え方をします。  
しかし、本当に観光を主とするなら、逆に、その土地に住む人たちの生活の息吹を見せる  
ことではあります。『同じでない』ことは、決していけないことではありません。『違つてゐる』ことでも決していけ  
ないことは、『同じでない』『違つてゐる』ことに疑問を持たないこと、それが何故  
人間が犯してはならないこと、最も恥ずべき行為です。違いをもつともつと認めてもいいと思  
います。いけないのは、『同じでない』『違つてゐる』ことでも決していけ  
ないことがあります。『違ひ』に『なぜ?』をくつづけてみませんか。  
そうすれば、もつともつといろいろな物事の『光』が見えてきます。  
違ひの光が見えてくれば、その違ひは『誇り』となるはずです。そしてその『誇り』が、本当  
の意味で地域を、人間を個性的にしていくのです。仏教の真の平等性はここにあるのです。  
小さな争いから、大きな戦争まで起きる原因は差異を認めない私たちのこの心にあります。

おお  
多くの観光を主としている地域が、この違いを消すことによって起になつていています。観光客のために道路を広くしたり、観光施設に行くために道をつけたり、古い街並みを保存と言う名目で新しい材料で綺麗にしたり・・・。  
しかし、本当に観光を主とするなら、逆に、その土地に住む人たちの生活の息吹を見せることがあります。いつも不思議に思うことは独自性、独創性と声高だかにいいながら、やつていることは結局みんなと同じ、他と違うことを嫌うという物事の考え方をします。『同じでない』ことは、決していけないことではありません。『違っている』ことも決していけないことではないのです。違っていることを排除しようとする差別と言います。これは人間が犯してはならないこと、最も恥ずべき行為です。違いをもつともつと認めてもいいと思います。いけないのは、『同じでない』『違っている』ことに疑問を持たないこと、それが何故なのか考えないとあります。『違い』に『なぜ?』をくつづけてみませんか。

違の意味で地域を、人間を個性的にしていくのです。仏教の眞の平等性はここにあるのです。小さな争いから、大きな戦争まで起きる原因は差異を認めない私たちのこの心にあります。